

11月5日は
津波防災の日
世界津波の日



全国に先駆けた“観光防災まちづくり”

土肥（とい）地域【静岡県伊豆市】

1-1. 土肥（とい）地域 位置

伊豆市の位置



土肥地域

1-2. 土肥温泉



海のまち土肥温泉の
観光防災おもてなし

1-3. 土肥温泉

恋人岬



恋人岬からの富士山



幻の白びわ



日本一早咲きの土肥桜



足湯



世界一の花時計



土肥金山・世界一の金塊



1-4. 日本一の早咲き「土肥（とい）桜」

土肥（とい）桜まつり
1月20日～2月7日

1-5. 土肥地域の人口

【人口減少は深刻】 毎年約100人ずつ減少している現人口(3,413人)は、明治時代と同じ規模までになっています。高齢化も進んでいます。

地域の維持も重要

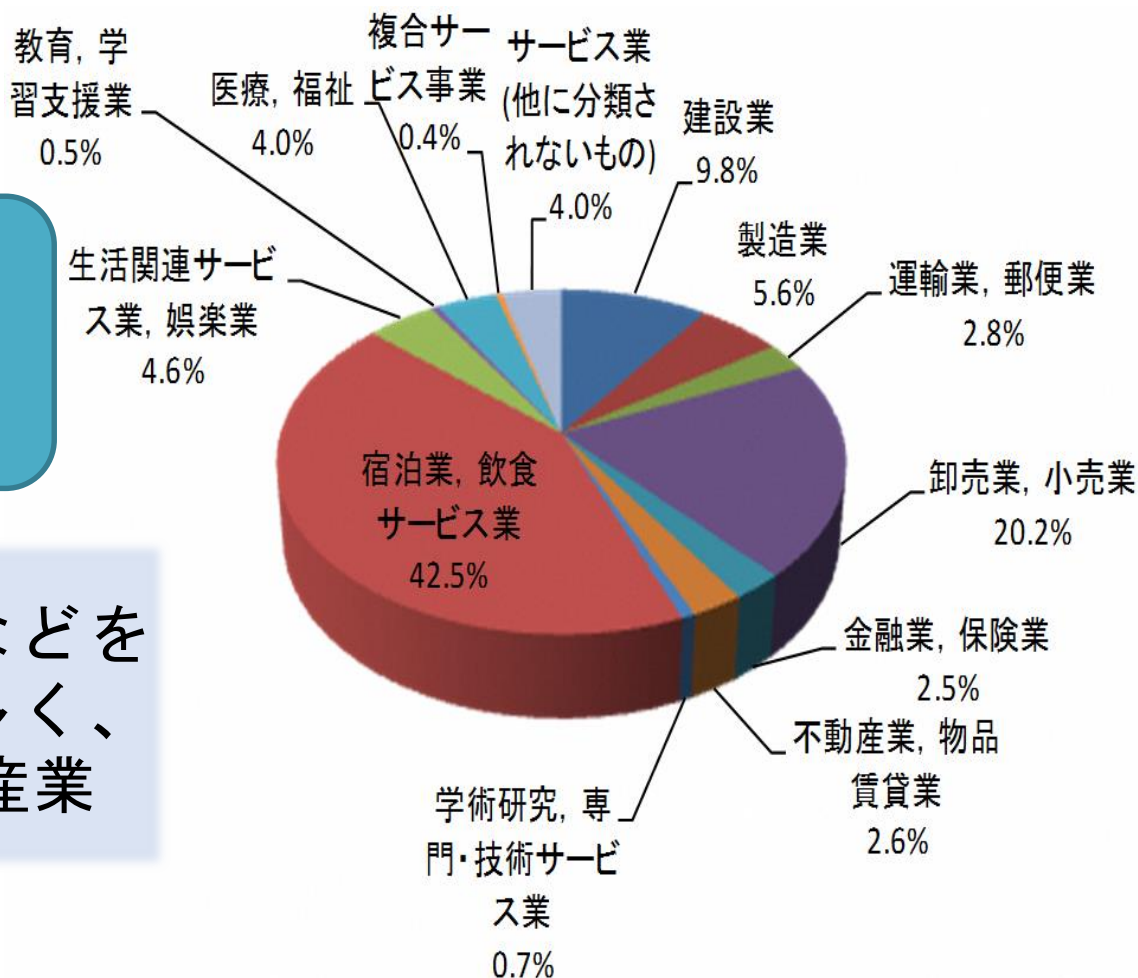


1-6. 土肥地域の産業

産業の維持

土肥地域の年間
観光交流人口約100万人、
宿泊客数約35万人

宿泊業やサービス業などを
なりわいとする人が多く、
観光は土肥地域の主要産業



観光がダメになると土肥の地域もダメになってしまう

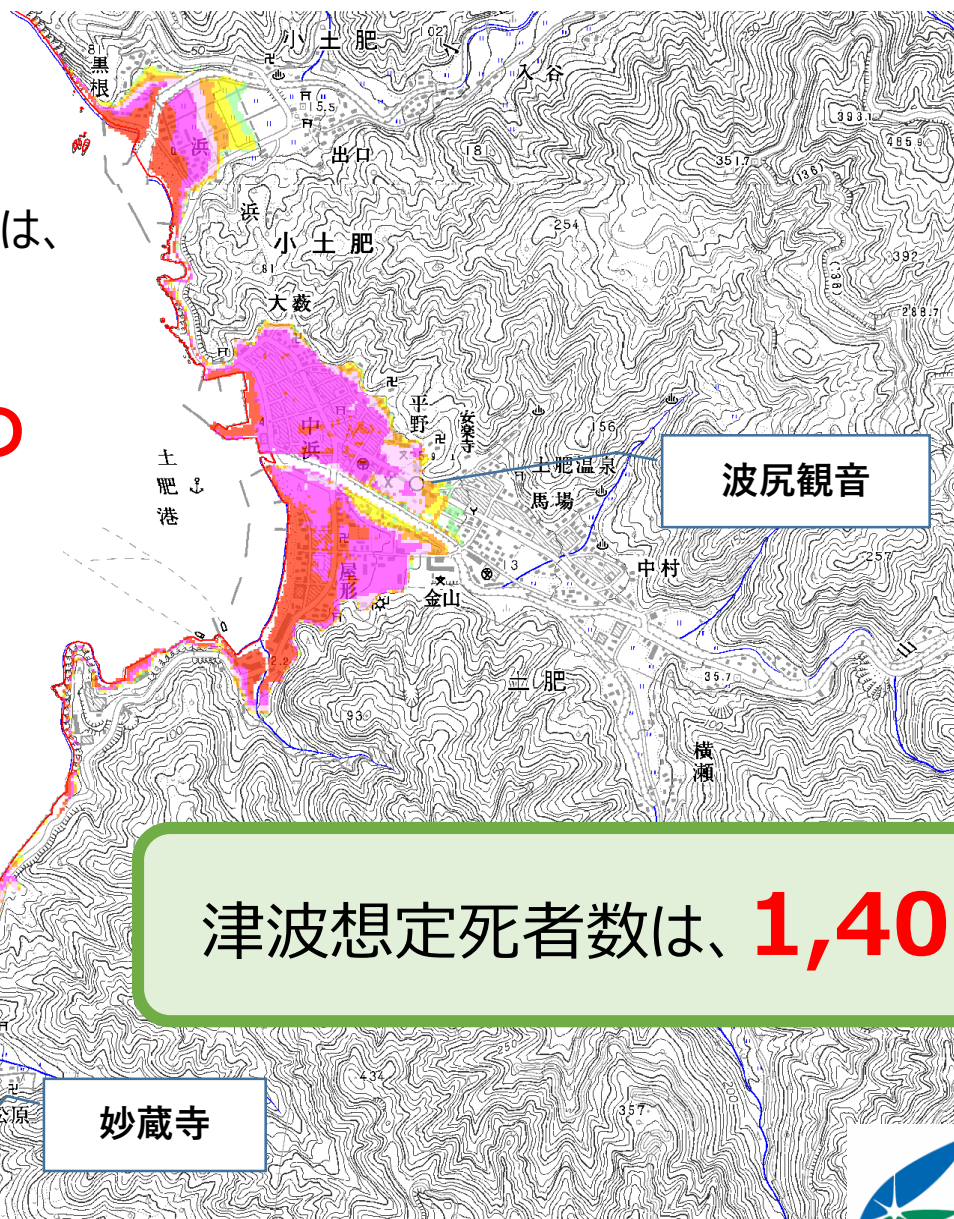
1-7. 土肥地域の津波想定

「南海トラフ巨大地震」が引き起こす津波は、

高さが最大で10m

地震発生から**6分後に土肥地域の**

沿岸に到達すると想定されています。



津波想定死者数は、**1,400人**



内閣府

土肥地域で始まった観光防災まちづくり

観光・環境・防災のバランスがとれたまちづくりに向けて
土肥地域一丸となって取り組みを推進

土肥温泉旅館協同組合

伊豆漁協土肥支所
伊豆市観光協会土肥支部
伊豆市商工会土肥支部

伊豆市区長会
土肥地区区長
土肥地区区長
土肥・小土肥地域づくり協議会
西豆地区地域づくり協議会
民生委員（土肥地区）
土肥中学校PTA会長

東京大学生産技術研究所
准教授 加藤孝明
静岡大学防災総合センター
准教授 原田賢治

国土交通省
静岡県
伊豆市

土肥温泉旅館協同組合も推進協議会の委員として参画

2-2. 観光防災まちづくりの取り組み

伊豆市“海と共に生きる”観光防災まちづくりを
土肥中生と考える会

地域が取り組む姿の**見える化**

観光防災まちづくりのぼり旗設置



観光防災まちづくりを
さまざまな団体・世代が考える

意見交換会



2-3. 観光防災まちづくりの取り組み



宿泊施設連携訓練

全国初！

区域の愛称決定

区域指定が及ぼす**地域の**
イメージをプラスに転換
するための**愛称**を設定

お客さまのための

避難経路・

避難誘導体制

を検証



観光施設土肥金山連携訓練

海のまち安全創出エリア

意味・・・今後、更なる危険性(リスク)をこれ以上、増やさないための取り組みを行うエリア

愛称に込めた思い・・・地震・津波からの避難が難しい高齢者や乳幼児等が、津波を「避け」て助かるように、安全にするための取り組みをつくりだし、積み重ねていくエリアに！

海のまち安全避難エリア

意味・・・津波の危険性を十分に理解し、対処方法、避難方法をきちんと準備しているエリア

愛称に込めた思い・・・万が一地震・津波による災害が起こった場合でも安全に「逃げる」ことができるよう、取り組みをみんなで頑張っていくエリアに！

2-4. レジリエンスグランプリ受賞

ジャパン・レジリエンス・アワード
(国土強靱化大賞) 2018
グランプリ受賞



土肥地域の**先駆的な取り組み**が全国的に評価された

がんばる地域宣言

地震・津波対策がんばる地域宣言

わたしたち 土肥温泉旅館協同組合 は、

『 宿泊者に地震・津波リスクへの啓発活動の強化 』

をすることを宣言します。

そのため地域では、わたしたちが、

○ 伊豆市と連携し、啓発文章をお客様へ配布致します。

○ 静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合と連携し、情報収集に努めます。

○ 当組合危機管理委員会を定期開催し、組合員に情報提供します。

といった取り組みを、できる範囲で、
地域のみなでがんばっていきます。

※本宣言は、地域ががんばるための努力目標を示したものであり、
できなかったからといって、誰かに責任が生じたりするものではありません。
※本宣言は、地域の状況により、内容を変更する場合があります。

平成 29 年 9 月

地域が主体となり、津波防災に積極的に取り組んでいる地域であることを対外的にアピールし、互いに刺激し合い、新たな取り組みを創り・持続させる”がんばる地域宣言”を作成

地域の一員として、

**組合としてできる地域の
安全・安心**を考えるキッカケとした

2-6. 土肥温泉旅館組合の地区防災計画

がんばる地域宣言を基に、土肥温泉旅館協同組合の”地区防災計画”を作成

いざという日に備える地域の取り組みルール

◎避難行動の考え方(反射的に動けるようになることが理想！)

大きなゆれがきたら・・・

- 来訪者（屋外） ⇒ 指定避難ビルの中へ（屋外サインで誘導）
- 来訪者（館内） ⇒ 高い階層へ避難（施設内誘導サインで避難）
- 従業員（館内） ⇒ 自分の安全を確保した上で、
宿泊客をなるべく高いフロアへ誘導

発災時の来訪者が
いる場所に応じて
設定

さらに安心して来訪していただくために（今後の課題）

- 必要な備蓄・数量・保管場所（調査H30～）
- 一時的な避難後の宿泊客等の誘導方法
- 宿泊客の帰宅までのサポート方法
- 各施設による計画作成の支援方法
- 施設間や市役所との相互調整の方法（災害時の宿泊客リストの共有方法 等）
- より高度な避難誘導訓練等を行うための支援
- 新たな取り組みに必要な支援の提案（避難・備蓄のスペース確保、耐震診断の推進方法 等）

今すぐ解決が難しい
取り組みは、課題
として計画に明記

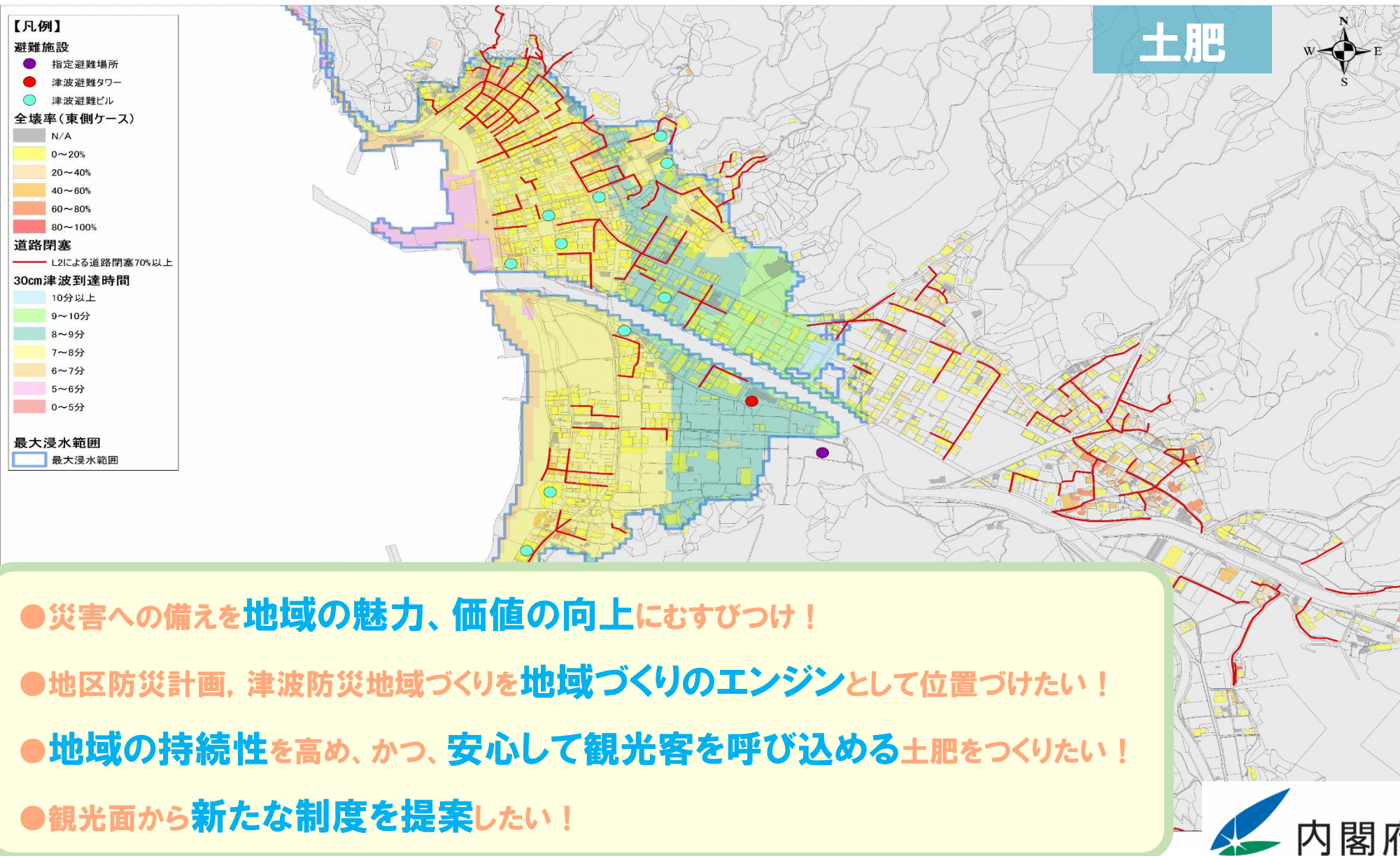
2-7. 土肥温泉旅館組合の地区防災計画

いざという日のために備えておく普段の取り組み

視点	取り組み	目標	備考
共生する	☐ 地震・津波による被害状況の理解に資する情報発信	全施設所有者 19人	
	☐ 避難時間計測の推進	全施設所有者 19人	
	☐ 海のまち安全確保エリア、海のまち安全創出エリアの理解に資する情報発信	全施設所有者 19人	
	☐ 無線通信機器運用の手引き作成	平成30年度中	チャンネル操作・報告方法、時間外の代行の方法を整理
	☐ 無線通信機器運用訓練の企画・実施	年 3 回	手引き記載内容の習得
	☐ 避難誘導訓練の企画・実施	年 3 回	
	☐ 安心・安全への取り組みに関する情報発信	年 2 回	
	☐ 防災資源を組み合わせたツアーの検討	平成31年度	
逃げる	☐ 設備等の固定するための情報提供	全施設数 19施設	
	☐ 津波避難が可能な施設の把握	全施設数 19施設	
	☐ 観光客のための避難誘導計画作成の推進	全施設数 19施設	
	☐ 津波避難誘導に係る研修実施状況の把握	全施設数 19施設	
	☐ 従業員の対応マニュアルの整備の推進	全施設数 19施設	
	☐ 避難路・避難場所の点検・管理	年 3 回	
	☐ 避難所や防災倉庫の点検・管理	年 3 回	

リスクと“共生する”、
発災後の“逃げる”
ことを中心とした組
合の取り組み・目標
を設定

2-8. 土肥温泉旅館組合の地区防災計画





内閣府